

平成29年度 第8回小平市産業振興基本計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成29年10月31日（火）午前10時から11時30分まで

場所：小平市役所 5階 505会議室

2 出席者

(1) 委員

9名（浅見委員欠席により、東京むさし農業協同組合指導経済課長 窪田氏が代理主席
出口委員欠席）

(2) オブザーバー

多摩信用金庫 長島地域連携支援部長

(3) 事務局

市：産業振興課 板谷課長、増原課長補佐、石田係長、鎌田係長、十河、飯泉
多摩信用金庫：地域連携支援部 嵯峨調査役、鈴木
首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 中西

(4) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料① 産業振興基本計画素案（案）

資料② 産業振興基本計画素案将来像案

資料③ 今後のスケジュール

4 内容(議事要旨)

(1) 議題

産業振興基本計画素案について

事務局から資料①を用いて、産業振興基本計画素案（案）について説明した。

(委員長) 今の説明について、質問や意見はあるか。

(委員) 事前送付された案と今説明があったもので大きな違いは何か。

(事務局) 大きな違いはない。多少書き方が変わっていたり、指摘を受けた誤字等について修正をしているところである。

(委員) 今日配られた案が、パブリックコメントに出す最終案か。

(事務局) この案に本日の検討委員会の内容を反映し、庁内の会議等を経たものがパブリックコメントにかけられる。

(委員) 大きな変化はないということか。

(事務局) 別物になってしまうことはない。

(委員長) 第4章については、現在ペンディングとなっており、今回の委員会で議論することになっているので、ここに書いてある内容からまた変わる可能性がある。

他に質問は。

(委員) 全体についての疑問点と意見についてどこかで説明したい。

(委員長) 第4章の将来像等に関わるものであれば、第4章の将来像について議論する中で説明してほしい。

他に質問がなければ、第4章産業振興の将来像について議論したい。事前に提出された各委員からの案と事務局からの案を見ていただきたい。なお、本日欠席している委員からは「事務局案のままで良いと思うが、計画書の表紙に“しょく”を強調してキャッチコピーを掲載してほしい」という意見をもらっている。また、事前に案を提出していない委員については、この場の議論を踏まえた上で意見を披露してほしい。まずは各委員から案について説明してほしい。

(委員) 1つ目と2つ目は役所のレポートに相応しいような言葉がある程度意識して書き込んだ。新しい産業振興ができて、その産業振興をもとに産業活性化を図っていくという事、市民の住みやすさ、暮らしやすさをあわせて、産業振興を担うという意味を考えて使っている。したがって、産業と暮らしということはいろいろな所に出てくかと思う。そういう意味で産業と暮らしは切り離せないものだという風に意識をしている。

1番目は「産業と暮らしの共生が、共創価値を紡ぐまち・こだいら」とした。産業と暮らしが車の両輪のように回って、住むことの価値を共に作っていくまちだ、ということである。副題で～市内に息づく産業DNAが、産業振興と暮らしの質的向上を刺激する～としている。その下にあるべき姿、ありたい姿という事を書いた。産業は日常の暮らしの中に溶け込んで共生していくという動きである。そういう産業振興のあり方がふさわしいという事だ。そのような産業振興の在り方であれば、産業と暮らしが一体となって、こだいらの産業ブランドになっていくと思われる。

2番目は「産業富(豊)源のまち・こだいら」。“富源”という言葉は辞書に載っているが、どちらかというと豊かの方の「豊源のまち・こだいら」という方が言葉の通りが良いと思っている。“豊源”というのは造語である。産業の源が豊かな、あるいは富んだという意味になる。今回の産業振興の目玉の一つは、稼ぐ力をどうやって磨いていくのかという事であるから、その稼ぐ力という言葉を使って～稼ぐ力と豊かな暮らしを生み出す情熱産業スピリット～ということで、小平市の産業振興の意思をコピーで書き出してみた。富源というのは、富を生じるもと、財を生み出す元という言葉である。

3番目は「産業振興 はじまる。こだいら」。副題で～新たな時代の新たな産業振興が、今・キックオフ!!～という事になる。

2000年に入って、新たな産業振興が作られてきて、これが今まさに新しい時代にふさわしい産業振興がこれから始まるという意識を強く訴えたかった。

4番目も「産業振興 はじまる。」という事で、「はじまる」という言葉をさらに強調するために3番目の案から「こだいら」を取った。「こだいら」は副題で～産業の“やる気・元気・輝き”を導くまち・こだいら～という風に入れた。産業のやる気が高まり、元気になって、産業も生活も暮らしも輝く、そういうまちにこだいらをしていきたいという思いがある。

5番目からは少し商業的色彩を強く出し、「産業振興の合言葉は“稼ぐ力”を磨く。」と、目玉の一つである「稼ぐ力」をコピーに持ってきた。この「稼ぐ力」を市は本気で考えているのかという事を問うために副題で、～いま、産業振興の“本気度”が問われているまち・こいだいら～と「本気度」という言葉を強く入れた。

6番目は「元気な産業がとまらない。こいだいら」。産業振興基本計画をもとに産業は根付いて、元気なまちになっていくという事を強く訴えたい。副題は～元気産業と最適産業の相乗が、輝くまち・こいだいらを育てます。～

7番目は「選べます。産業振興の本気度を。こいだいら」。「選べます」という言葉を強く示した。計画案の中にいくつも施策がでてくるが、自分の産業、事業にあった産業振興策が選べるという事、あるいは、小平市に事業所を持つという事が選べるという事を言っている。副題は～産業振興。輝く暮らしの発見が始まる～。

8番目は「元気産業。暮らしを育て、まちを輝かせ。」という事で、元気づいている産業があることを強調している。副題は～産業振興×快適環境＝充実暮らし・∞こいだいら～。産業の振興と快適な環境が相乗して充実した暮らしがあり、それが無限大だということが「元気産業。暮らしを育て、まちを輝かせ。」ということになる。

(委員長) ありがとうございます。この中で一押しの案は。

(委員) 周辺自治体の計画や関連するレポートを事前に勉強したが、役所は市民や事業者に対してインパクトのあるコピーを使っていない。そういった役所の計画であるならば1番目か2番目に落ち着くべきだと思う。ただ、役所も商業的色彩を強めて産業振興をより強くアピールするならば、3番目である。

(委員長) ありがとうございます。次の案について委員から説明を。

(委員) 基本的に事務局の案でほぼ問題ないと思っている。その案をもとに、少し長い印象があったので短くしたものが“しょく”あふれるプチカントリーである。他の委員の意見のように、産業と暮らしというものは切り離せないと思うので、“しょく”というワードは外さない形になっている。また市で「都会から一番近いプチ田舎」というフレーズを出していたが、それを若い世代に向けてライトな表現に変えたものが「プチカントリー」である。

キャッチコピーというと、短くて誰でもパッと聞いて認識できる言葉で構成されていると思う。そういう意味では固い言葉や漢字が多かったり、考えこんでしまう言葉は使わず、どんな世代が見ても言葉の意味が理解でき、スッと入ってくるような覚えやすい文字数にしたらいいという事も含めた結果、事務局案を短くライトに言い換えた案となった。

(委員長) ありがとうございます。次の案について委員から説明を。

(委員) これは今回の案として出したものではなく、以前、目次案を出した時に事務局案を書き換えたものである。「農業とICTが支える、暮らしが豊かになるまちこいだいら」だがこの計画はICTを取り込んでいないので、この案は使えないと考える。趣旨は不易と流行は両方とも大事であり、農業が不易、ICTが流行であると考え。不易と流行が共生するという意味で作ったものである。

(委員長) 先ほどの説明をこの場でお願いしたい。

(委員) 私は事務局の計画案には納得していない。ただ大きく見直す時間がないと思うし、全然ダメだという意味ではないが納得はしていない。現在の計画案は従来の施策の延長や目先の事が多く、計画期間の10年間をカバーできるとは思えない。基本計画に相応しいか疑問である。

2点目は、産業の環境は今ものすごく変わっており、それを考えると計画を作ったとしても、継続して施策を検証していける体制が重要だと思っている。

3点目は、産業振興プログラムはできるだけ具体的に書かなければ読んでも分からないと思う。施策だけでなく、実施される時期を書くべきだ。10年間の前半部分で試みるのか、後半でやろうとしている事なのかを盛り込まなければならない。施策の支援と環境は環境整備を先に置いたらよいという話が以前あった。すべての案について環境整備が先だとは言わないが、基本的には環境整備、支援の順だと思う。そうすると期間の取り方も環境整備の方が先にあってしかるべきだと考えるが、現在の計画案だと分からない。また、規模についてもこのプログラムがどのくらいお金がかかるものなのかが分からない。KPIについても抽象的である。

4点目は、これまでの施策の成果評価の反映は今回の計画にされているのか。PDCAを今後実施できるようになっているのか確認したい。

5点目は、調査結果や委員会の意見は反映されているのか確認したい。

6点目は、調査結果の説明に矛盾がないか、もう一度確認したほうがよい。調査結果そのものについても、製造業やサービス業の実態について十分に調べることができたのか疑問である。

7点目は、調査結果と施策に矛盾がないかどうか確認した方がよい。人材不足、人材のミスマッチについて重要視しているが、調査結果から人材不足、人材のミスマッチについてよくわかるかどうか、小平市内でマッチングが可能なのか疑問である。産業振興へのICT活用を提案しているのは、マッチングできるような土壌を作っていく必要があるからである。今も就労マッチングが実施されていると思うので、実績データはあるはずだが、報告書の中にはない。

8点目は、なぜ、ICTの活用に取り組まないのかという事である。ICTという言葉はでてくるが、取り組んではいない。今後10年間において、ICT活用は避けては通れない。AIやIoTは製造業と非常に関わりがある。LINEのようなツールについても法人レベルで使われていくと思う。そういった事であらゆる産業や仕事がすごく変わっていくが、計画案では取り組んでいないと思っている。ICTの産業振興への活用例としては、経営力向上や情報発信、働き方改革、ビッグデータの活用などがあるが、計画案では触れていない。デバイスとしてのスマートフォンの活用もあるし、コミバス・コミタクの自動運転ということも可能になるかもしれない。それから、業種や地域を超えてつないでいくためのプラットフォームとしてもICTは重要となる。創業、誘致や研究機関との共同推進などがICT分野に関連があるが、計画案に書かれていない。

キャッチフレーズを考えるにあたって、価値・個性・新しさが大事だ。この産業振興策の目玉は何か、お客さん、市民、企業、農家など利害関係者にとっての価値は何か？それがわからないと、いくら聞こえがよくても意味がない。そういう理由で職と

食という、発音が似ている言葉を組み合わせたものは好ましくない。キャッチフレーズとして、“食”はよいと思うが“職”は妥当なのだろうか？小平市ならではの施策がキャッチフレーズからわかるようにしてほしい。他の委員の案だと、「産業と暮らしの共生」という言葉が良いかと思う。

(委員長) ありがとうございます。意見については検討し考慮する。事前に案を出していない委員から意見はあるか。

(委員) 今回出た案を聞いて、なるほどという感じを受けた。「産業振興 はじまる。こだいら」というフレーズは課題や説明はいろいろあると思うが、イメージとしてはまるよな気がするまた、事務局案の“しょく(職・食)”がつなぐ産業と暮らしが豊かになるまち こだいらも柔らかいイメージで職業の職、商業のイメージと食べる方の食は農業の方がつながるイメージが感じられて悪くないと思う。

(委員長) 他の委員はどうか。

(委員) 難しい言葉は入れない方が良くと思う。キャッチコピーは誰に向けて訴えたいものかを考えると、働いている人達はピンと来ても、そうでない人は何を言っているのかわからないという事になってしまう。自分が考えた案は「緑、人、暮らしが豊かなまち こだいら」である。自分がここで暮らしていく上で小平市がどんなまちであってほしいか、産業という事を考え、自分が暮らしていく上でどういうまちを目指したいかと思った時に、“緑”は農業や自然を表し、“人”は小平にはユニークな人が多くいて、人材が小平の資源であると聞いたことがあり“人”という言葉を入れた。“暮らし”はどんな人にも生活があり、仕事にもプラスに繋がると考え、そのすべてが豊かになっていくまちだったら嬉しいと思いこの案を考えた。

(委員長) ありがとうございます。他の委員からは。

(委員) 事務局案が良いと思い、案は出さなかった。キャッチフレーズなので、すべての項目を盛り込むのは難しい。産業振興ということで雇用創出がメインに置かれるといいかと思ったので、その意味での“職”と小平市の産業の特徴として農業の“食”という言葉が結ばれているので、事務局案が良いと思っている。

(委員) 策定の趣旨について、小売業、飲食業、農業といった事を中心に地域と共に発展してきたということと、事業者については雇用の創出といった事を活用しながら市内産業全体の活性化を図っていくということがもとの趣旨になるので、職を食に結びつけた事務局案がある程度ベースになって良いかと思う。ただ、現在の事務局案は職と食が何を繋ぐのかわかりにくい。産業と暮らしをつないでいるのか、その辺りの交通整理は必要かと思う。基本として職と食を軸に置いて作っていく方向性は良いと思う。

(委員長) ありがとうございます。各委員の意見を聞くと、資料②の委員案1、3と、事務局案をベースにした案、そしてそれをやさしくした案への意見が多かったと思う。最初に説明した委員から、他の委員の意見を聞いてさらに案はあるか。

(委員) 基本的な所に戻ると、なぜキャッチコピーが必要なのか、位置付けがどうなのかということが議論されず、整理されないままで考えているのではないか。キャッチコピーの役割は施策の中身であるボディーコピーを読ませるために、注意を向ける、つな

げる役目である。この計画の中でキャッチコピーを置く理由は、新しい業を起こせるかな、あるいはこういう風に変えると今よりも事業が広がり、儲かるかもといった興味を持たせる事であると思う。そういう意味で、キャッチコピーには農業や商業といったことを出さずに産業振興という大きい括りの中で、今考えている産業がどういうポジショニングなのか、どの方向に向かって産業振興を図っていくのか、どのくらいの強さを持っているのか。そういった事がある程度推測させながらボディコピーまでつなげる役目を持たせている。だから、「職と食をつなぐ」というのは少し絞りにすぎていると思う。キャッチコピーという意味では、産業振興という全体のことを挙げて、それが抽象的であれば、副題、リードコピーで読ませてボディコピーまでつなげていくという意味を持っている。ターゲットは特定しないが、市民全員ということになる。どんなメッセージを出すのかということについては、産業と暮らしが一体に、としたところに重点を置くべきだ。地域密着の環境共生や社会共生である。まちづくりと関連させて産業振興をどういう方向に持っていくのかという事が、強さとしては ICT や高付加価値、生産性の向上、経済循環といった事が、キャッチコピーを読んだ時に感じ取ってもらえるような趣旨で案を作った。訴求ポイントは、産業の成長とまち（市内）での暮らしをどう感じるかといった事である。したがって、案の1番目が良いと思っている。

(委員長) キーワードとしては、委員が言うように「産業と暮らしの共生」が産業振興のポイントとして重要だということか。

(委員) 「共創価値を紡ぐ」は難しいと感じる。

(委員長) そこを除いて「産業と暮らしの共生」というところは共感できるか。

(委員) やはり産業も暮らしもどういう価値をその中で作っていくのかが非常に大事だと思う。

(委員長) 他の委員はこの「産業と暮らしの共生」というキャッチフレーズは受け入れやすいか。

(委員) 「共創価値を紡ぐ」の部分はちょっと難しかった。共生という言葉に違和感はない。

(委員) どちらかと言うと、固い言葉より柔らかく入って来やすい言葉の方が、キャッチとして良いと思うので、「産業と暮らしの共生」は良いと思う。

(委員長) 柔らかくもないけど、固くもないということか。委員が言っていたようなすべての人に受け入れやすいような、内容を象徴するようなフレーズもある。

(委員) 目指すべき将来像をここに置くという事は違和感はない。他の委員が言うように、「共創価値を紡ぐ」というのはイメージわきにくい。

(委員長) 「産業と暮らしの共生」という部分だけでは短すぎるか。

(委員) キャッチフレーズは短ければ短いほどいいと思う。

(委員長) 我々も多くの人も意味が分かるだろうし、それほど難しくない。産業振興の位置付けが象徴されるような気がする。

(委員) そうであれば、副題がないと、なかなかつながっていかないのではないかと感じる。

(委員長) 副題はまた別ものを考えるのはどうか。副題に事務局案はどうか。

(委員) 職と食というのはわかるとしても、その先の意味がわからない。

- (委員)「産業と暮らしの共生」というのは、今まで議論した中では普通のキャッチコピーである。副題で特徴を出すなら良いと思うが。例えば豊田市のようなところで「産業と暮らしの共生」というのなら良いが、小平市となると。副題で特徴が出ればよいが、事務局案は後半部分を少し交通整理した方がよい。
- (委員長)事務局案を少し改良した“しょく”あふれるプチカントリーでは“しょく”に括弧書きがない。
- (委員)少し説明的かとおもった。
- (委員)副題であれば、キャッチコピーがすっきりしているのに副題もすっきりしてしまうのであればもう少し説明的でもよい。
- (委員)「産業と暮らしが共生」してどうなるのか、という事がくっついてくると思う。
- (委員)市としては、「本気度」という言葉は使いたくないのか。
- (事務局)本気であるのは当たり前であって、コピーというのはこの計画全体を一言で表すものである。この計画については、小平の特色を活かした、いわゆる緑豊かな住環境の中で、どう産業振興していくのかという事が重要。従って、食、特に緑豊かな農業も盛んなまちで産業がどう一緒に共存するかという観点から案を提示した。これについて議論していただいている。最終的には市の計画となるので、市の目指す方向のなかで、キャッチコピーが使われていくと考えている。
- (委員)他の自治体の計画でもキャッチコピーは当たり障りのないコピーが並んでいて、なんらインパクトを感じられない。読んだ時に力を入れてやっていることが伝わり、何らかの形で関わりたいと思わせるコピーがずっと頭の中に残っている。そのことからすれば、市の本気度が問われているという意識を持っている。強いメッセージを発することでインパクトがあると思う。今回KPI等の指標を計画の中で使うのであれば、それが1つの目標値となり、その目標値に対して本気度が問われる訳である。
- (事務局)産業振興基本計画に内包する計画として農業振興計画があり、そちらにははっきり食べる食ということを言っている。そして地産地消ということで、小平の特徴という点では、農業・食ということは切り離せないものと考えている。そういう意味で事務局と委員長も含めて検討した案の方向性が良いのではないかと考えている。
- (委員長)事務局案を少し改善して、副題ところに委員の案を使うというのはどうか。
- (委員)それこそ説明につかうべきでは。職と食はわからない。農業の食はいいが、職と食を結び付けるのは全然わからない。事務局案を使うなら下に説明がある。そうでないと読んでも分からない。
- (委員長)そうすると委員会の案としては、「産業と暮らしの共生」が1つのキャッチフレーズで、副題としてそれを説明するような気の利いたコピーを作る。
- (委員)「産業と暮らしの共生」という案を見て、「産業と暮らしが共生し、ずっと安全でいたいまち」というのを書いたが、「産業と暮らしの共生」の後ろにフレーズがあったほうが良いと思う。
- (オガバー)先ほど豊田市の話があったが、小平市は「産業と暮らしの共生」ではなく「暮らしと産業の共生」なのではないか。暮らしが先にある。産業がメインとなるまちではないのでそちらの方がどうか。

(委員) 産業振興の話をしているので、それは変だ。

(ワザバー) 「産業と暮らしの共生」ということはスツと入ってくる。ただ、続きがあった方が良くと思う。

(委員) 事務局案の“しょく”は、農業振興計画に“しょく”を入れたいという事はわかるが、“職”というのは雇用の事を言っているので、無理やりセットにしたいのか、強引に持ってきている感じがある。この“しょく(職・食)”というキーワードは市としては外したくないという方向なのか。

(委員長) 市としてはどうか。

(事務局) 農業振興計画の方が食べる“食”、産業振興基本計画が職業の“職”とそれを上手くつなぎ合わせて、スツと計画に入り込めるという事で提案している。職と食というキーワードを2つの計画の中で上手く絡めて表現できたらという事はある。

(委員長) 委員からの意見は出たので、委員会としては「産業と暮らしの共生」に何か少しつけるような形で、委員長副委員長で相談して決めたいと思う。それに副題、説明を加えるようにする。委員長副委員長で相談して考えるので、一任して頂くという事で良いか。そういう事にさせていただく。

本日の議論を元にして、市役所内の会議を経てこれを確定し、11月20日ごろにパブリックコメントを実施する。パブリックコメント用の素案は今日の議論を踏まえて修正したものである。パブリックコメントの内容を踏まえて、最終的な案を第9回の検討委員会で示したいと考えている。次回は1月30日の開催を予定している。次回が最後の検討委員会になる。

(委員) 事前に誤字脱字等に踏み込んでチェックしたが、比較的直っていなかった。そういう意味では納得していない。全体の方向性ではなく、細かな所で間違った文章を書いていると見受ける。宅地化と住宅地化、住環境と居住環境も使い方が違う。また、商業人口支配率は初めて目にしたが、国で使われているのか。また、ローカルという言葉も理解ができない。日本語で書けるところは日本語で書いた方が良い。

また、文章が理解できないところがある。第6章の緑と農地と共存する住環境の維持の文章は課題になっていない。課題をはっきりさせなければならない。

第8章のところでは、事業者と農業者が分かれている理由がわからない。広域連携による就労支援プログラムで「インキュベーション施設(コワーキングスペース、レンタルオフィス、シェアオフィス)」とあるが、インキュベーション施設＝コワーキングスペースではない。チャレンジショップ支援については、良い制度だと思うが足りない部分がある。こういった既存の施策に対して手直す事も今回の振興策にあってしかるべきではないか。

今回の課題の中で、“稼ぐ力”という言葉が出て来ており、調査結果を見れば、売上が上がらない、利益が上がらないといった事がある。それに対していかにして売上や利益を上げるのかに取り組む必要があるが、それに対する施策が非常に貧困である。いままでマーケティング・マネジメントということを強く言ってきたが、その意識啓発とスキルを磨くということが足りていない。農家の人にもマーケティング・マネジメントスキルを身につけてもらわないと稼ぐ力は磨けない。どう意識改革をしてもら

うのかという事を施策の中に盛り込まないといけない。

KPI がでてきたが、KPI か KGI か分からないが、何らかの形で事業の進捗状況をチェックするべきである。

(委員) 時期を書かないと意味がないのでは。いつまでに、何をやるのかを書かないといけない。

(委員) KPI が良いか KGI が良いか分からないが、何らかの形でチェックをするシステムが必要である。その他細かい所をチェックしたが、納得するような形になっていないところに不満がある。

(委員長) 資料チェックし再度精査する。

(2) その他

今後の日程等について

事務局から、資料③を用いて、今後の日程等について説明した。

(委員) パブリックコメントは委員も市民の一人としてできるのか。

(事務局) 可能である。

(委員長) それでは、第8回検討委員会を終了とする。

以 上